



文殊小学校だより

令和6年度 第11号

発行日 令和7年3月24日(月)

「ホームページ・ブログ」はこちらから →



令和6年度 大変お世話になり ありがとうございます

先日は卒業証書授与式が行われ、19名の卒業生が立派に本校を巣立っていきました。保護者の皆様や地域の方々には、6年間大変お世話になり感謝申し上げます。今後とも、「地域の宝」である子どもたちの成長を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

さて、本日で令和6年度の教育活動が修了します。この1年間、子どもたちは毎日笑顔で登校し、いろいろな活動に一生懸命取り組み、心も体も大きく成長しました。4月には新しい学年に進級しますが、これからも、さらなる成長を目指して、頑張ってくれることを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様や地域の方々には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき改めて感謝申し上げます。来年度もよろしくお願いいたします。1年間、ありがとうございました。

(校長)

○3月11日(火) 卒業証書授与式



祝 卒業おめでとうございます



教職員の異動

大変お世話になり、ありがとうございました

祝 表彰

- ・県小中学生書きぞめ展
 - 推薦 ○○○○ (6年)
 - 特薦 ○○○○ (2年) ○○○○ (2年) ○○○○ (3年) ○○○○ (3年)
 - (4年) ○○○○ (4年) ○○○○ (6年) ○○○○ (6年)
- ・県かきぞめ競書大会
 - 準推薦 硬筆の部 ○○○○ (2年)
 - 毛筆の部 ○○○○ (6年)
 - 特薦 硬筆の部 ○○○○ (1年)
 - 毛筆の部 ○○○○ (6年) ○○○○ (4年) ○○○○ (5年)
- ・県小中学校図画作文コンクール
 - 銀賞 図画の部 ○○○○ (2年)
- ・「未来へつなごう！ふるさとの美土里」子ども絵画展2024
 - 足羽文殊土地改良区 理事長賞 ○○○○ (4年)
- ・県版画コンクール
 - 秀作 ○○○○ (4年)

(前略)

文殊小学校を巣立っていく19名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今ほどは、皆さん一人一人に卒業証書をお渡しし、壇上で受け取る凛々しい姿を会場の皆様にご覧いただきました。今、皆さんが手にしている卒業証書には、みなさんが、この6年間の学校生活の中で学んだことや、培ったすべてのことが込められています。是非、いつまでも大切にしてください。

さて、私が皆さんと一緒に過ごした学校生活は、たった2年間だけではありましたが、日々の勉強はもちろん、全校で取り組んだ学校行事、縦割り活動や委員会活動など、何ごとにも誠実に取り組む皆さんの姿は大変素晴らしく、とても誇らしく思いました。

その中で特に印象に残っているのは、文殊山のトイレ掃除、その環境美化を呼びかける標語の掲示や看板設置、文殊地区の魅力を伝える動画作りといった総合的な学習の時間での取り組みです。皆さんのふるさと文殊を大切にしようという思いにあふれた行動は、たくさんの人を笑顔にし、幸せを与えるものとなりました。全校集会で紹介をしたイエローハットの鍵山秀三郎さんの「3つの幸せ」というお話を覚えていますか？ 誰かのために何かをするという行動は、人を幸せにするだけでなく、人から感謝されることで、自分自身も「最高の幸せ」を得ることができるというお話です。文殊地区のために何ができるのか、自分たちで考え、それを実行した皆さんの行動力は大変素晴らしいものでした。

また、連合音楽会やNHK全国学校音楽コンクールにおける合唱活動も大変素晴らしく、言葉1つ1つの意味をみんなで考え、どう歌で表現したらよいか、それぞれの思いを共有しながら皆さんが中心となって創り上げていった歌声は、誰の心にも優しく響き、感動を与えました。そんな皆さんの歌声は、文殊地区で育ち、文殊小学校で学んだ皆さんだからこそ創り上げることができたものであり、皆さんの感性そのものであると思います。現代社会においては、インターネットやデジタル機器の発達により、直接的な体験や人間関係が減少し、感性が失われつつあると言われています。皆さんが持つ、その感性は、かけがえのない宝物です。

これら文殊小学校6年間の学びや経験は、きっとこれから歩む人生において、とても大切なものになることと思います。そこで、小学校を巣立ち、中学校という新しい世界に踏み出そうとするみなさんに、私から最後のお願いです。それは、いついかなる時も、夢を持ち続けてほしいということです。

幕末から明治という激動の時代に、様々な困難を乗り越え、高い志を持って未来を切り拓き、今日の日本の基礎を創り上げ、「日本経済の父」と言われた渋沢栄一さんを皆さんは知っていますか。昨年、新しくなった1万円札の顔となった人です。その彼の残した有名な言葉に、「夢七訓（ゆめしちくん）」というものがあります。

夢なき者は理想なし	理想なき者は信念なし	信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし	実行なき者は成果なし	成果なき者は幸福なし
ゆえに幸福を求むる者は 夢なかるべからず		

という言葉です。少し難しく聞こえたかも知れませんが、これを分かりやすく言うと、

「夢がないということは理想がなく、理想がないということは当然、信念もない。信念がなければ計画も立てられず、計画がないのだから、実行できるはずがない。例え、実行したとしても、とうていうまく行くはずはない。だから、成果をあげられず、幸福にもなれない。よって、幸福になりたいのであれば、まず、夢を持つことです。」ということを意味しています。

この教えは、幸せな人生を送るためには、「夢」を持つことから始まり、「夢を持つことの大切さ」を伝えています。では、夢を持てば、幸せになれるのでしょうか。この「夢七訓」の素晴らしいところは、「計画」や「実行」が大切だと言っている部分だと思います。夢を持つこと自体は簡単です。しかし、「計画と実行」がなければ、決して夢は叶わないのです。

先頃、日本人として初めて、アメリカ野球の殿堂入りを果たしたイチロー氏も、皆さんが「文殊の火祭り」で夢の発表を行ったように、小学校6年生のときに、一流のプロ野球選手になりたいという将来の夢について作文を書いています。その夢を叶えるために、365日、自分が決めた練習メニューを徹底して実行していきました。1つ1つの練習メニューは簡単にできるようなものでしたが、彼の信念として、何事もひたすら続けることで、大きな成果につなげるという生き方を貫き、夢を実現しました。のちに、あるインタビューで、「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ1つの道」とイチロー氏は答えています。日米の野球界で数々の偉業を成し遂げたイチロー氏ですが、その成功の裏には、計り知れない努力の積み重ねがあったことは間違いありません。

これまで機会あるごとに皆さんに伝えてきた本校の目指す児童の姿である「目標をもち、挑戦し続ける」にもあるように、未来を担う皆さんには、どんな時代であっても、夢や希望を持ち続け、その実現に向け、強い意志を持って取り組んでいってください。文殊小学校で学んだ皆さんなら、きっと成し遂げられると信じます。

(後略)